慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ブルツク英文學史(石井誠譯, 東光閣發行)
Sub Title	
Author	松本, 芳夫(Matsumoto, Yoshio)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.1 (1926. 3) ,p.152- 153
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19260300-0154

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の合併、圍込、物價騰貴、機械の採用を擧げてゐる。

第十章マルサスと人口法則について、彼はマルサスの救濟策を救貧法の廢止、道德的抑制とし、眞の救濟策は、勞働者の住居の改善、より良き教育、より良き娛樂といふが如き社會改良の大方策を講じ、彼等を向上せしむることであると論じてゐる。第十一章、賃銀基金說にてマルサスの賃金基金說の批判をなし、英國及び歐洲大陸に於ける賃銀の比較より、一七九〇年乃至一八二〇年に於ける賃銀の下落にまで說明してゐる。第十二章、リカルドと地代の騰貴に於ては、「リカルドは其だ單純なる論據より產業的進步に關する有名な一法則を演繹した。進步的社會に於ては、地代は騰貴し、利潤は下落し、賃銀は殆ど同一點に靜止するに相違ないと彼は云ふ、吾々は此の法則が眞實であり、正當に適用し得ることを、實際の事實から發見するであらう、乍然、それは普遍的法則として承認せられ得ない」と云ひ、而して「歷史的研究法とは、經濟史の過程の實際的觀察から、經濟的進步に關する諸法則の推論を意味する。而して此の研究法は、推論の結果を吟味する點に於て、最も有益であるけれども、その不完全なる概論を提唱する傾向の故に、それ自體は危險に充ちてゐる」と述べてゐる。更に彼は農業的地代學說の考察する都會に於ける敷地賃貸料に就き論を進めてゐる。

第十三章、二ツの經濟的進步論では、賃銀は靜止し利子は低落するであらうといふリカルドの說は事實が兩命題を反駁し、又ヘンリー、ジョージの經濟的進步論も同じく事實と矛盾せるを說く。第十四章勞働者階級の將來に於ては、勞働者階級の道德的進步、勞資關係の改善、產業的共同經營、共產主義、修正社會主義を述べ、最後に「現實の問題は、勞働者の境遇に於て幾分の改善を達成すべきかではなく、完全なる物質的獨立を如何にして確保すべきかであることを、吾々は記憶せねばならぬ」と云つて章を結んでゐる。リカルドと舊派經濟學の論說は經濟學說研究の士にとつても十分の滿足を與へるものと思ふ。

更に通俗講演集は、勞資兩階級の聽衆に對して、勞資關係に影響する諸問題を論議したものであり、最後の雜錄は、種々の場所時々に於て彼の心に浮べる儘のものを飾したもので、よく彼自身を眞實に表示しが味あるものである。本書の譯はいさゝか逐字譯にすぎたるも、曩に譯出されるものよりも更に平易に譯述されてゐる。尙原書の頁數を指示されあるも譯者の勞を多とし、本書を敢へて推奬するに十分なることを信ずるのである。

（一九二六・二・二六山口昌）

ブルツク英文學史（石井敏澤　東光閣發行）

從來わが國と政治的に最も親交があり、政治經濟においてわが國人の範として、仰いだ英國に對してわが國人はどれだけの理解を有するであらうか、現在中等學校以上の語學においては最も多くの時間と努力とを英語に費し、政府發行の紙幣から民間の商標に至るまで、或は汽車の切符から街頭の看板及び廣告に至るまで馬鹿げたほど英語を亂用しながら、わが國人は英文學に對してどれだけの理解があるであらうか。語學研究と文學研究とは必ずし

も一致するものではないにしても、語學に對してあれだけの努力を惜まないのならば、文學に對してもッと注意を拂つて然るべきであらうと思ふ。しかるに事實吾々は、語學に親むことの多きにかゝはらず、文學には至つて疎遠であつた。ましてその文學史においてはなほさらである。その理由は英文學そのものの性質によるかもしれず。國民一般の無定見により、或は語學者の文學的無智にもよるであらうが、またその方面の指針となるべき邦語の好著なきためでもあつた。しかるに今般新進英文學者の石井誠氏によつてブルックの名著英文學史の邦譯を得たことは、多年の渴望を醫すべき快事と言はねばならぬ。

原書はもと八章よりなり、ノルマン征服前の文學から一八三二年スコットの死とともに終つてゐたのを、その以後現代に至るまでの一章をヂオッサムプスンが增補したのであつて、譯書はこの一九二四年の增補新版によられたのである。その內容の價値はことごとしく、「紹介するまでもなくこの量の書としては是に優る英文學史を望むことは不可能である」と凡ての識者によつて認められたる名著であつて、その濫觴より現代に至るまでの文學を極めて「透徹明快な斷定」と、「適確にして高雅な文體」とをもつて叙述せるものであつて、しかも簡單ながら科學や哲學や史學にまで論及せる點よりみれば、本書は英民族の精神的文明の發展をみることのできる文化史といふことができる。譯文は極めて明快、裝釘は頗る典雅、しかも詳細なる文學地圖と、年表及び索引とを附せられたことは、讀者にとつて非常に親切であり、近來の好譯としてこれを江湖に推奬するを辭しない。（松本芳失）

會告

本會々費大正十四年度分未拂込の方へは近日集金郵便差立可申候間御不在にても御支拂相成樣御用意の程願上候